第70回 青少年読書感想文全国コンクール
課題図書の紹介

	書　　名	著 者 名	内　　容
低学年	アザラシのアニュー	あずみ虫	さむい冬のある日。地球の北のほうにある海の氷の上で、タテゴトアザラシのあかちゃんがうまれました。おかあさんはあかちゃんに、アニューとなまえをつけました。ある日、おかあさんがうみにでかけると……。アザラシのあかちゃんが一生懸命に成長する姿を、親しみやすいイラストで描きます。
	ごめんねでてこい	ささき みお	大好きなおばあちゃんと、少しの間いっしょに暮らすことになったはなちゃん。優しいおばあちゃんと過ごす時間はとても楽しかったけれど、いつもと違う生活にだんだんもやもやがたまってきて…。「おばあちゃんなんて、きらい！」と言ってしまったはなちゃんは、「ごめんね」が言えるのでしょうか。
	どうやってできるの？チョコレート	田村 孝介	原料のカカオから板チョコレートができるまでを、豊富な写真としかけ画面を使いながら、順を追ってみていきます。原料が変化して食べ物になるふしぎ、そして社会の仕事にも目が向く絵本です。
中学年	いつかの約束1945	山本 悦子	「あたしは、関根すず。9さい！」ゆきなとみくは、自分は9歳だと言うおばあさんに出会い、共に一日町を歩き回ることに。後日、二人は意外な場所で彼女と再会する。残されたメッセージに込められた思いとは？いっしょに町を歩きまわり、語り合った、忘れられない夏の一日。
	じゅげむの夏	最上 一平	山ちゃん、シューちゃん、かっちゃん、ぼくの仲よし4人組は、天神集落で同じ小学校に通う4年生。かっちゃんは筋ジストロフィーという病気だけれど、特別な存在ではない。かっちゃんが、4年生の夏休みに、川へダイブしたいと言い始めた。めいっぱいいのちを謳歌する少年たちの夏の日をみずみずしく描いたさわやかな作品。
	聞いて聞いて！音と耳のはなし	高津　修 遠藤 義人	音はふるえる空気の波。左右の耳に届く音はわずかにズレていますが、脳はその差を手がかりに、音がする方向や、どんな場所で響いているのかを判断します。ふたつの耳で聞くことで、より立体的で、いきいきした音の情景が描かれるのです。
高学年	ぼくはうそをついた	西村 すぐり	広島に住む小学校5年生のリョウタ。祖父から、原爆で亡くなった祖父の兄ミノルの話を聞く。戦争は怖い、二度と繰り返してはいけないと思った一方、どこか遠い昔の出来事のようにも感じていた。亡き大おじミノルの足跡をたどろうと思う。原爆で子どもをなくしている曾祖母は、時おり記憶がまだらになり、我が子を捜し始める。なんとか彼女を救いたいと思うレイだが――。
	ドアのむこうの国へのパスポート	トンケ・ドラフト	作家の家には、なぞめいたドアがある。ドアのむこうには、特別なパスポートを持った人しか入れないという。クラスの子どもたちは作家と手紙をかわしながら、パスポートやビザの申請といった課題にむきあううちに、仲間や自分をより深く知っていく。
	海よ光れ3・11被災者を励ました学校新聞	田沢 五月	東日本大震災の避難所となった小学校で、被災者といっしょに寝泊まりしていた子どもたち。何を感じ、そして自分たちに何ができるのかを考え取り組んだこととは…。子どもたちの思いをつぶさに伝える感動のノンフィクション。